

# 地域自主戦略交付金事業

## 一般県道椿井王寺線 椿井～三室工区

### 奈良県（道路建設課）

1. 再評価対象事業一覧表
2. 事業評価項目一覧表
3. 説明資料

### 事業評価項目一覧表

事業名	地域自主戦略交付金	事業主体	奈良県
河川・道路名等	(一) 樺井王寺線	事業箇所	樺井～三室
評価項目及び評価内容			
<p>事業の目的及び必要性</p> <p><input type="checkbox"/> 目的</p> <p>・ 歩行者および自転車の交通安全 ・ バスおよび緊急車両の走行性向上</p> <p><input type="checkbox"/> 必要性</p> <p>・ 幅員狭小、歩道未整備 (P. 4・5)</p>			
<p>事業策定の経緯</p> <p><input type="checkbox"/> 当時の状況</p> <p>・ 住宅地を通る地区内幹線道路であるが、幅員狭小で歩道未整備であり、歩行者および自転車の安全対策が必要。</p> <p><input type="checkbox"/> 着手までの経緯</p> <p>・ P Iによる道路構造の検討 ・ 平成18年度事業化 (P. 3～6)</p>			
<p>事業の効果(費用対効果や施策的な効果など)</p> <p><input type="checkbox"/> 計画時の効果</p> <p>・ 交通事故減少、歩行者および自転車の安心感、安全性の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 現時点の効果</p> <p>・ B / C = 1.9 (P. 4・5・9)</p>			
<p>事業の進捗状況(着手時からの社会経済情勢の変化、事業の問題点、克服度など)</p> <p><input type="checkbox"/> 進捗状況</p> <p>・ 事業進捗率：18.7% 用地買収率：13.7%</p> <p><input type="checkbox"/> 執行の遅延及び原因</p> <p>・ 事業着手後に著しい地図混乱が判明 (P. 7)</p>			
<p>事業進捗の見込み</p> <p><input type="checkbox"/> 進捗の対策</p> <p>・ 事故が多く歩道のない区間について、用地買収重点区間を設定。</p> <p><input type="checkbox"/> 進捗の見込み</p> <p>・ 一定の用地買収ができた区間から工事を実施。部分的にでも事業効果を発現させる。 (P. 8・10)</p>			
<p>事業の対策</p> <p>・ 事故が多く歩道がない区間については、先行して用地買収を実施し、歩行者・自転車の安全を確保するなど、部分的に事業効果を発現させる。 (P. 8・10)</p>			
<p>その他</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関等の意向</p> <p>・ 地元(平群町、三郷町)は事業に協力的</p> <p><input type="checkbox"/> 関連事業の有無</p> <p>・ 無</p>			

平成24年度 第2回 奈良県公共事業評価監視委員会

## (一) 椿井王寺線(椿井～三室工区)

平成 24 年 1 1 月  
奈良県土木部道路建設課

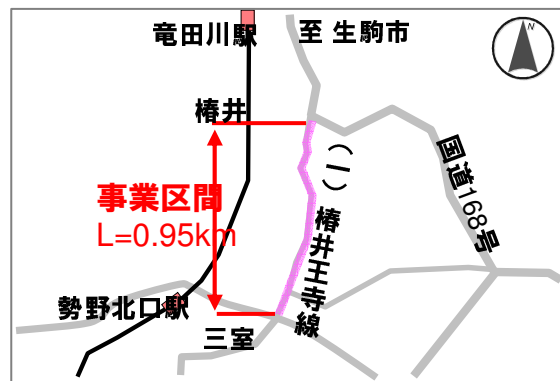
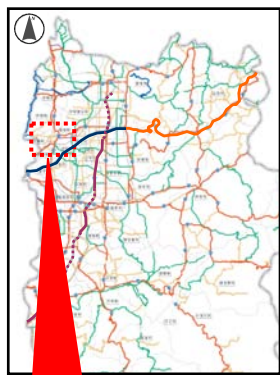
---

# 目次

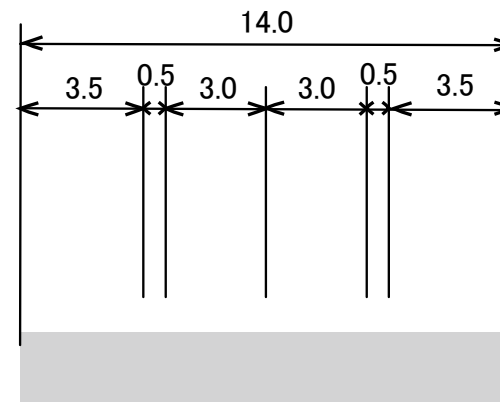
1. 事業の概要
2. 事業の背景と目的
3. 事業の経過及び進捗
4. 今後の事業見通し
5. 事業の費用対効果
6. 今後の方針(案)

# 1. 事業の概要

## ◆事業箇所



## ◆標準横断面図



## ◆事業概要

路線名	一般県道 椿井王寺線
事業区間	平群町椿井～三郷町三室
事業延長	0.95 km
構造規格	第4種第2級
設計速度	40km/h
車線数	2車線
道路幅員	14.0m
全体事業費	26.2億円
事業化年度	平成18年度

## 2. 事業の背景と目的

### ◆走行性の向上

・椿井王寺線は、生駒郡平群町から北葛城郡王寺町の住宅地内を通る地区内幹線道路であるが、幅員狭小区間であるため、車のすれ違いが困難。

⇒現道の拡幅により危険なすれ違いが減少

⇒バスや救急車両の走行性が向上

### <幅員が狭小な事業区間の状況>

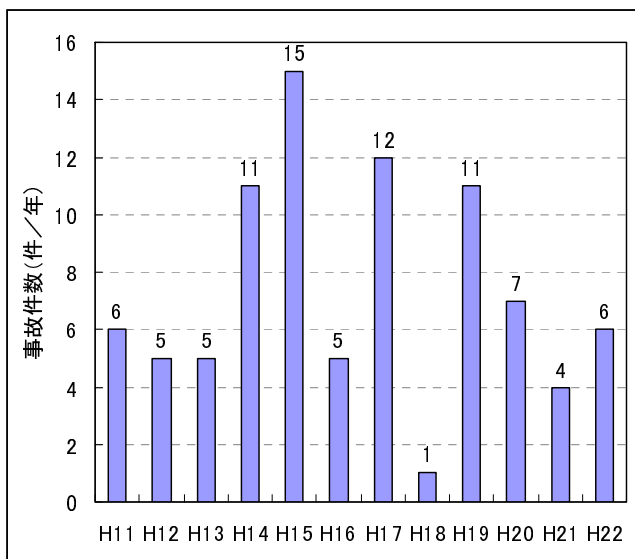


## 2. 事業の背景と目的

### ◆歩行者・自転車の安全性の向上

- ・事業区間では、平成11年～22年にかけて交通事故が88件発生し、死亡者・重傷者も出ている。
- ⇒現道を拡幅し、自転車歩行者道を整備することで交通事故減少
- ⇒歩行者・自転車の安心感、安全性の向上

<事故発生状況>



資料: 交通事故マッチングデータ

<現道の歩行者・自転車通行状況>





### 3. 事業の経過及び進捗

#### ◆PIによる道路法線の検討

- ・平成16年11月に「県道椿井王寺線検討委員会」が発足。
- ・平成17年度に、検討委員会2回、住民参画のワークショップを4回開催し、道路構造および景観検討について意見交換を実施。
- ・道路構造および景観・環境についての意見をもとに詳細な検討を実施。





### 3. 事業の経過及び進捗

- ・平成18年度に事業着手
- ・著しい地図混乱が判明し、平成21年度より地籍整備に着手。
- ・歩道がなく危険な区間では、平成22年度に既存の道路幅員内で境界ブロックやポール等の応急的な安全対策を実施。
- ・地籍整備の完了した箇所より、平成23年度から用地買収に着手。

平成18年度	事業着手
平成21年度	地籍整備に着手
平成22年度	既存道路幅員内での安全対策実施
平成23年度	地籍整備完了箇所の用地買収着手
平成24年度	全地区地籍整備完了予定

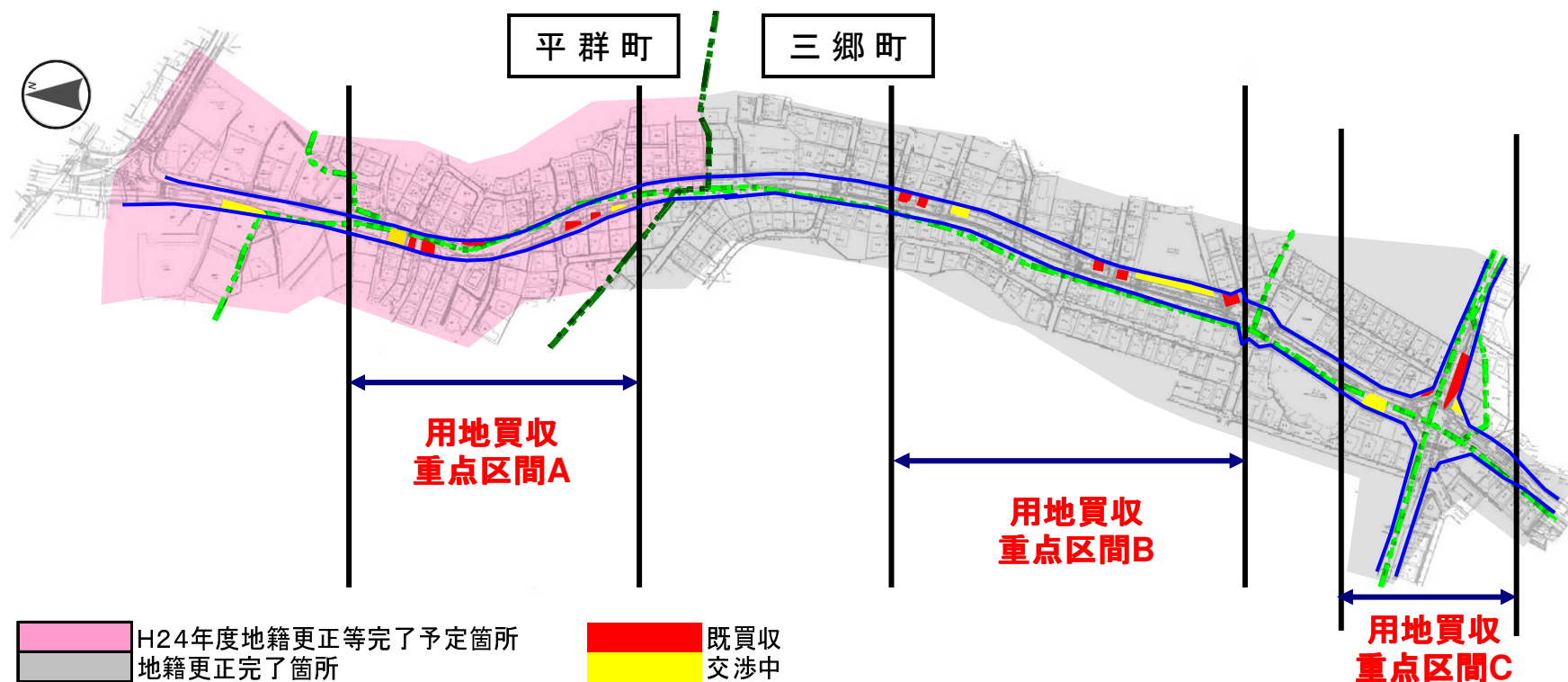
◇用地買収	進捗率13.7%
◇事業全体	進捗率18.7%

※平成24年9月現在

# 4. 今後の事業見通し

## ◆今後の事業見通し

- ・歩行者・自転車の交通安全対策が必要
- ・事故が多く歩道のない区間(A, B、C)では、先行して用地買収を実施し、歩行者・自転車の安全を確保するなど、部分的に事業効果を発現させる。



## 5. 事業の費用対効果

### ◆計画交通量と事業費

計画交通量	13,300台／日
事業費	26億円

### ◆費用便益分析結果

事業全体	B／C=1.9
残事業	B／C=2.6

注) B、Cは、評価時(平成24年度)の価値に換算している。

### ◆便益(B)の内訳

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益
事業全体	34億円	7億円	2億円

## 6. 今後の方針（案）

### ◆方針（案）

- ・事故が非常に多い住宅地内の地区内幹線道路の安全対策が必要。
- ・先行区間内で一定の用地が確保できた箇所から整備を行い、部分的に事業効果の発現を図る。

⇒事業継続が妥当と判断

### ◆コスト縮減

- ・既設側溝の有効利用（嵩上げ等に対応）  
⇒縮減額 7百万円